

広島大学医学部医学科カリキュラム委員会
委員長 秀 道広 殿

教員からの教育に対するフィードバックおよび卒業生に対する
アンケートの分析・評価結果の報告ならびにこれを踏まえた提言

平成 29 年 6 月 9 日

広島大学医学部医学科教育プログラム評価委員会

委員長 武島 幸男
副委員長 工藤 美樹
委員 大上 直秀
委員 小林 正夫
委員 酒井 規雄
委員 野杣 純一（学生委員）
委員 松下 毅彦
委員 松本 正俊
委員 宮原 新（学生委員）

（委員五十音順）

広島大学医学部医学科教育プログラム評価委員会細則第4条第7項の規定に基づき、先般当委員会にて実施した「平成28年度医学科教員アンケート」および「卒業生へのアンケート調査」の分析・評価の結果をご報告し、また、それらを踏まえ、今後の教育に関し以下の通り提言致します。よろしくご高配のほどお願い致します。

1. 平成28年度医学科教員アンケート

(1) 概要

平成29年3月22日～4月22日に、Web調査形式にて資料1のアンケートを行った。調査対象としたのは医学科会議に出席する教授が主宰する講座、部門・部署に所属する全教員計361名であり、うち334名から回答を得た（回答率92.5%）。

(2) 集計・分析結果

教員の自己評価

集計結果を資料2に示す。回答者の93.4%は何らかの教育活動を担当しており、全体の70%が講義を、62%が臨床実習での学生指導を担当していた。自分の行っている教育が十分な効果を上げていると思うかという質問に対しては、約3分の2の教員がある程度以上そう思うと回答し、また、熱意を持って教育に取り組んでいるかという質問に対しては、約8割の回答者がある程度以上そう思うと回答した。一方で、教育に時間を十分確保できているかという質問に対しては、あまりあるいはまったくそう思わないという回答が38.6%を占め、ある程度以上そう思うの29.6%を上回った。これらの結果は、教育に対して熱意を持ち効果も上げていると考えているものの、教育に十分な時間の確保ができていない教員が多い現状を示唆しているものと考えられる。

カリキュラムの理解

医学科のカリキュラムを理解しているかという質問に対しては、自分の所属系のカリキュラムはある程度以上理解しているとの回答が8割を超えたが、所属系以外のカリキュラムについては、6割以上の回答者があまりもしくはまったく理解していないと回答した。この結果は、現在の教員は所属系以外のカリキュラムに関する理解が低く、カリキュラムの全容を理解している教員は少ないことを示している。

広島大学の医学教育における問題点

全体の半数あまりの51.8%は現在の広島大学の医学教育において問題点と感ずる部分はないと回答したが、半数近い48.2%が問題点と感ずる部分があると回答した。問題点として指摘された点は教員の負担に関するものが39件と最も多く、このうち20件は教育に時間が十分取れないという指摘であった。また、教育業務に対する評価が十分なされていないという指摘も6件あった。2番目に多かったのはカリキュラムに関する指摘の36件であり、うち11件はカリキュラム内容に関する指摘、10件は科目間の連携不足に関する指摘であった。3番目に多かったのは学生側の問題に関する指摘の21件で、うち17件は学生の態度や学習意欲についての問題の指摘であった。4番目に多かったのは臨床実習に関する20件であり、うち10件は、実習が見学主

体であるので診療参加型実習の充実等によりもっと実践的な実習が必要という意見であった。

教員が感じること

学生教育を行っていて日頃感じることについては123件の記入があったが、うち半数以上の63件が学生に関するものであった。内訳としては学習姿勢についてが44件と最も多く、大多数は学生の学習意欲や積極性の低さを指摘するものであり、これほど多くの教員が指摘するほど深刻な状況であることを示唆していると考えられる。学生の社会人としての資質については10件の指摘があり、いずれも挨拶等の基本的礼儀ができていない、身だしなみが乱れているとの指摘であった。

改善点の提案

改善点の提案の求めに対しては106件の記入があった。最も多かったのは教員の負担に関する27件であり、内訳は教育専任教員の雇用を求めるものが9件、教員の増員を求めるものが7件、教育に対するインセンティブを求めるものが5件であった。また、教員の教育に関する事務作業に対する支援を求めるものも3件あった。2番目に多かったのはカリキュラムに関する17件であった。指摘内容は多様であったが、科目間の連携に関する提案が4件あった。また、これらのほかに、進級判定を厳格にすべきとの意見が5件あった。

2. 卒業生へのアンケート

(1) 概要

平成28年12月～平成29年4月に質問票の郵送形式で、卒業生に対して資料3のアンケート調査を実施した。医学科の卒業生のうち、広仁会員となっている3600名に対しては会誌の郵送時に回答用紙を同封し、広仁会員となっていない288名については卒業時の住所に回答用紙を個別に郵送した。合計490名から回答が得られた（回答率12.6%）。

(2) 集計・分析結果

卒業生による自己評価

集計結果を資料4に示す。集計は、全体集計と世代別の集計を行った。世代は卒後20年以内（平成28年～平成9年卒）、卒後21年以上30年以内（平成8年～昭和62年卒）、卒後31年以上（昭和61年以前卒）の3世代に分けた。世代別の回答者数は卒後20年以内が148名、卒後21～30年が132名、卒後31年以上が210名であった。

現在の自己評価については、診療面で十分な成果を上げているかという質問に対しては、とてもそう思うとの回答は20～30%程度であり、ややそう思うを含めると80%程度となった。研究面で十分な成果を上げているかという質問に対しては、ややそう思う以上の回答がおおむね40%であった。自己研鑽を今も続けているかという質問に対しては、とてもそう思うとの回答は20%程度、ややそう思うを含めると80%程度となった。これらの結果は自己評価であり、実際にその通りかを確認するには他の客観的な評価法が必要だが、自己評価の結果からは、卒業生の多くは診療面では十分な成果を上げ自己研鑽も継続していると判断される。なお、いずれも質

間についても、世代によって多少のばらつきはあるものの、世代による明確な傾向はみられなかった。

在学中に十分身につけられたと思うものは何かという質問に対しては、医学知識が約73%で最も多く、2番目は自己学習の姿勢の約41%、3番目が倫理・使命感の約36%であった。医学知識は卒後20年以内が79.2%であったのに対し卒後21～30年と卒後31年以上はともに70.5%であり、若い世代の方が高かった。自己学習の姿勢については、卒後20年以内が47.5%、卒後21～30年が43.9%、卒後31年以上が34.3%と卒業が最近であるほど高い傾向がみられ、最近の教育の方が、自己学習の姿勢をより涵養している可能性が考えられた。倫理・使命感には世代による明確な違いはみられなかった。

在学中に十分身につけられなかったと思うものは何かという質問に対しては、英語能力が88.7%ともっとも高く、世代による明確な違いはみられなかった。9割近い卒業生が英語能力を十分身につけられなかったと回答していることは、広島大学の英語教育が過去30年以上にわたって不十分であったことを示唆している。2番目に多かったのは診察手技の58.9%であった。卒後20年以内の卒業生に限っても53.3%が診察手技を上げており、半数以上の卒業生が上げている事実は、広島大学の臨床手技教育が不十分である可能性を強く示唆している。3番目はコミュニケーションの43.3%であったが、世代別にみると、卒後21年以上がおおむね4割台半ばであるのに対し卒後20年以内では27.5%と大幅に低くなっており、最近ではコミュニケーション教育が改善していると判断される。しかし、それでもなお4分の1の卒業生がコミュニケーションを上げている事実は、さらなる改善を行う必要を示唆している。4番目は臨床推論の41.3%であった。世代別には、卒後21年以上がおおむね40%であるのに対し卒後20年以内では33.3%とやや低くなっており、最近臨床推論教育がやや改善している可能性がある。

医学科の教育に対する提言を求めた自由記載欄には161件の記入があった。最も多かったのは英語教育の充実に関する提言の29件であり、次いで倫理・人格教育の20件、3番目は臨床実習の充実の18件であった。これは、在学中に十分身につけられなかったものに対する回答と同傾向を示している。

3. アンケート結果の評価

カリキュラムの啓蒙について

教員アンケートでは、自分の所属系を超えてカリキュラムを理解している教員は少ないという結果となった。医学教育は6年間を通じて一貫性を持って行われる必要があり、そのためにはすべての教員が自分の系を超えてカリキュラム全体を理解していることが望まれる。また、科目間の連携不足を指摘する声もあり、全教員がカリキュラム全体を把握することで、科目を超えた連携も取りやすくなると考えられる。この点については、今後の改善を要すると思われる。

教員の負担軽減について

教員アンケートの結果から、教員は教育に十分な時間を確保することに大きな困

難を抱えており、この状況の改善を求める声が非常に強いことが明らかとなった。教員の増員や教育担当教員の雇用のほか、教育業務に対するインセンティブや教員の事務作業に対する支援などの求めがあり、これらについては早急に検討する必要があると思われる。

学生の学習姿勢および倫理教育について

教員アンケートでは、学生の学習意欲や積極性の低さを指摘する声が非常に多数あり、学生の学習姿勢の改善は喫緊の課題であると考えられる。カリキュラム自体の見直しを含め、根本的な改善策を検討する必要がある。

学生の社会人としての資質について

教員アンケートでは、挨拶や身だしなみに関する指摘がかなりみられた。卒業生アンケートでも、2番目に多かった提言は倫理・人格教育についてであり、学生の社会人としての資質に対する教育についても重視する必要があると考えられる。現在の医学科には、挨拶や身だしなみなど、社会人としての一般常識を直接的に教育するカリキュラムはなく、それらは大学外での日常生活や臨床実習の中で自然に身につけるべきものと考えられている。しかし、今回のアンケートの結果は、現在のそのような方法では不十分であることを示しており、今後、具体的な教育方法を検討することが望まれる。

英語教育について

卒業生の9割近くが英語を十分身につけられなかったと回答していること、医学科の教育に対して求めた提言も英語教育に関するものが最も多かったことから、卒業生にとって英語力は関心の高い重要な問題であると考えられる。現在の英語教育のあり方を見直し、卒業時に役立つような英語教育プログラムを構築する必要があると考えられる。

臨床実習の充実について

教員アンケートでは、現在の実習は見学主体となっており、もっと実践的な実習が必要であるとの意見が多く寄せられた。また、卒業生アンケートでも、在学中に診察技能を身につけられなかったとの回答が半数を超えており、臨床推論能力を十分身につけられなかったという回答も多かった。これらのものは理論的な講義で学べるものではなく、実践を行うことで初めて身につくものである。そのためには臨床実習は、単なる見学ではなく十分な実践を行えるような診療参加型実習等の実習形式を今以上に導入し、より充実した臨床実習を行うことが必要と考えられる。

4. 提言

- 1) 教員を増員すること、特に教育専任教員の雇いを推進することを提言します。なお、昨今の人員削減の方針から増員自体は実現が困難な事情もあるかと思いますが、そのような状況であれば、教員の教育活動に対するインセンティブを制度化すること、教員の事務作業に対する事務部門による支援を制度化すること等、教員数の増員を伴わないで、教員のモチベーションを高め教員の負担を軽減する方策の検討を提言します。

- 2) 学習姿勢や積極性は、特定の1つの科目で教えて身につくものではなく、6年間を通じてどのように身につけさせていくか、教育全体を見渡した計画が必要と考えられ、学生の学習姿勢や積極性を6年間の教育のなかでどのように高めていくのか、カリキュラムの見直しを含めた具体的な方策を検討することを提言します。
- 3) 今回のアンケート結果から、社会人としての資質が不十分であるという実態が明らかとなっており、それが卒業後の医師としての活動にも支障を来すと考えられる以上、そのようなことは大学教育の範疇の外で各個人で身につけるものであるという従来の姿勢は通用しなくなっているといえます。倫理・人格面を含めた社会人としての資質をどのような方法で涵養するか、医学部としての方針を明確に定めることを提言します。
- 4) 卒業後、役に立ったと卒業生が振り返るような英語教育を構築することを提言します。卒業後医師として仕事をするうえで実践的に役立つような英語教育とは何かを再検討したうえで、教育内容を見直す必要があると思われます。
- 5) 教員アンケート、卒業生アンケートのいずれも、実践によって診察手技や臨床推論能力を身につける教育が重要であることを示しています。見学ではなく、実践の中で技能や臨床推論能力を身につけられるような形式の臨床実習を、今以上に拡大することを提言します。

平成 28 年度 医学科教員アンケート

あなたの所属する系はどれですか。

- 基礎医学系 社会医学系 臨床系

医学部 6 年間の卒前教育（大学院教育は含まない）において、何を担当していますか（複数回答可）。

- 講義（年間 コマ）
 テュートリアルチューター
 基礎・社会医学系の実習の指導
 臨床実習前の 4 年生に対する診察手技等の実習指導
 臨床実習での学生指導
 ユニット試験または卒業試験の問題作成
 OSCE の評価者
 科目（ユニット）のコーディネーター
 科目（ユニット）の責任者
 その他（具体的に： ）
 教育は何も担当していない

あなたがしている教育は、学生に対して十分な教育効果をあげていると思いますか。

- とてもそう思う
 ある程度そう思う
 なんとも言えない
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

あなたは、教育に対して熱意をもって取り組んでいると自己評価していますか。

- とてもそう思う
 ある程度そう思う
 なんとも言えない
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

あなたは、教育に関して必要な時間を十分に確保できていますか。

- とてもそう思う
 ある程度そう思う
 なんとも言えない
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない

あなたは、自分が所属する系（基礎系、社会医学系、臨床系）に関して、現在の医学科の教育カリキュラムの内容をどの程度理解していると自分で思いますか。

- 完全に理解している
- おおむね理解している
- ある程度理解している
- あまり理解していない
- まったく理解していない

あなたは、自分が所属する系以外の系にまでわたって、現在の医学科の教育カリキュラムの内容をきちんと理解していると自分で思いますか。

- 完全に理解している
- おおむね理解している
- ある程度理解している
- あまり理解していない
- まったく理解していない

現在の医学科のカリキュラムについて、ご意見をお聞かせください。

現在の広島大学での医学教育において、問題点と感ずる部分がありますか。

- ない
- ある（具体的に：

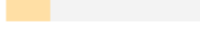
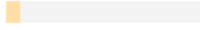


）

学生教育を行っていて、日頃感じていることがあればお書きください。

現在の広島大学での医学教育において、ここを改善すればよりよくなると思われる点があれば、ご提案ください。

平成 28 年度医学科教員アンケート集計

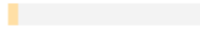

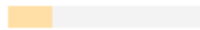
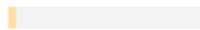
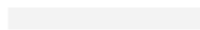
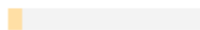
質問 1: あなたの所属する系はどれですか。

回答数	割合	選択肢 (単一回答)	
75	22.5%	基礎医学系	
26	7.8%	社会医学系	
233	69.8%	臨床系	
0	0.0%	未回答	

質問 2: 医学部 6 年間の卒前教育 (大学院教育は含まない) において、何を担当していますか (複数回答可)。

回答数	割合	選択肢 (複数回答可)
235	70.4%	講義
121	36.2%	チュートリアルチューター
98	29.3%	基礎・社会医学系の実習の指導
93	27.8%	臨床実習前の 4 年生に対する診察手技等の実習指導
208	62.3%	臨床実習での学生指導
152	45.5%	ユニット試験または卒業試験の問題作成
111	33.2%	OSCE の評価者
34	10.2%	科目 (ユニット) のコーディネーター
33	9.9%	科目 (ユニット) の責任者
28	8.4%	その他
22	6.6%	教育は何も担当していない

質問 3: あなたが行っている教育は、学生に対して十分な教育効果をあげていると思いますか。

回答数	割合	選択肢 (単一回答)	
17	5.1%	とてもそう思う	
200	59.9%	ある程度そう思う	
76	22.8%	なんとも言えない	
15	4.5%	あまりそう思わない	
1	0.3%	まったくそう思わない	
25	7.5%	未回答	

質問 4: あなたは、教育に対して熱意をもって取り組んでいると自己評価していますか。

回答数	割合	選択肢 (単一回答)	
62	18.6%	とてもそう思う	
200	59.9%	ある程度そう思う	
41	12.3%	なんとも言えない	
6	1.8%	あまりそう思わない	
1	0.3%	まったくそう思わない	
24	7.2%	未回答	

質問 5: あなたは、教育に関して必要な時間を十分に確保できていますか。

回答数	割合	選択肢 (単一回答)	
15	4.5%	とてもそう思う	
84	25.1%	ある程度そう思う	
82	24.6%	なんとも言えない	
100	29.9%	あまりそう思わない	
29	8.7%	まったくそう思わない	
24	7.2%	未回答	

質問 6: あなたは、自分が所属する系 (基礎系、社会医学系、臨床系) に関して、現在の医学科の教育カリキュラムの内容をどの程度理解していると自分で思いますか。

回答数	割合	選択肢 (単一回答)	
10	3.0%	完全に理解している	
126	37.7%	おおむね理解している	
135	40.4%	ある程度理解している	
57	17.1%	あまり理解していない	
6	1.8%	まったく理解していない	
0	0.0%	未回答	

質問 7: あなたは、自分が所属する系以外の系にまでわたって、現在の医学科の教育カリキュラムの内容をどの程度理解していると自分で思いますか。

回答数	割合	選択肢 (単一回答)	
3	0.9%	完全に理解している	
27	8.1%	おおむね理解している	
96	28.7%	ある程度理解している	
172	51.5%	あまり理解していない	
36	10.8%	まったく理解していない	
0	0.0%	未回答	

質問 8: 現在の医学科のカリキュラムについて、ご意見をお聞かせください。

(回答 96 件、未回答 238 件)

内容すべてを列記できないため、項目のみを示す

カリキュラム内容	35
科目間連携	3
教員間連携	2
教育方法	3
教育内容	2
医学研究実習	7
臨床実習	9
英語教育	5
教員（負担、不足）	10
その他	17
なし	11

質問 9: 現在の広島大学での医学教育において、問題点とを感じる部分がありますか。

回答数 割合 選択肢（単一回答）

173	51.8%	ない	
161	48.2%	ある	
0	0.0%	未回答	

質問 10: 前問で「ある」とお答えになった方に伺います。感じられている問題点を具体的にお書きください。

(回答 149 件、未回答 185 件)

教員の負担 など	39
カリキュラム	36
学生の問題	21
臨床実習	20
英語教育	8
FD の開催	3
施設・予算の不備	3
医学研究実習	2
教育情報の共有	2
進級判定	2
その他	39

質問 11: 学生教育を行っていて、日頃感じていることがあればお書きください。

(回答 123 件、未回答 211 件)

学生の問題	学生の学習姿勢	44
	学生の態度	10
	学生の能力	9
カリキュラム	教育方法	16
	カリキュラム構成	8
	英語教育	5
	教育内容	4
教員	教員の負担	18
	FD の開催	4
	教員間の情報交換	2
その他	出席の取り方	3
	その他	14
	なし	4

質問 12: 現在の広島大学での医学教育において、ここを改善すればよりよくなると思われる点があれば、ご提案ください。

(回答 106 件、未回答 228 件)

教員の負担の軽減	27
カリキュラム	17
臨床実習の改善	8
学生の態度	7
FD の開催	7
英語教育	6
進級判定の厳格化	5
医学研究実習の再検討	3
学生からの意見聴取	2
その他の意見	39
なし	7

広島大学医学部医学科卒業生アンケート調査

(平成 29 年 1 月 10 日までに、返信用封筒でご返信ください。)

基本情報

- 1) お名前 () 2) () 年卒 3) 男性 ・ 女性
- 4) 現在の勤務先の種別
 大学病院 大学病院以外の総合病院 個人病院
 有床診療所 無床の診療所あるいは医院 研究機関
 非常勤勤務のみで常勤の勤務先なし まったく勤務していない
 その他 (具体的に)
- 5) 現在の勤務先名 ()
- 6) 現在のポスト ()
- 7) 診療科 (あるいは専門分野) ()

活動状況 (ご記入可能な範囲で結構です。)

- 8) 取得専門医 ()
- 9) 学位 (博士号) の有無 あり なし
- 10) 大学院を修了しましたか はい いいえ 現在在学中
- 11) 診療について
 1 年間で診療する外来患者数 (人)
 1 年間の受け持ち入院患者数 (人)
 1 年間の執刀数 ()
- 12) 研究について
 1 年間あたりの学会での発表回数 (回)
 1 年間あたりの学会への出席日数 (日)
 (夕方の 1～2 時間程度の研究会等は 1 / 4 日として計算してください)
 卒業後に執筆した論文数 (英文: 編、和文 編)

医師としてのあり方や業績についての自己評価

- 13) 先生は診療面において、卒業後も熱心に取り組み十分な成果を上げていると自己評価されていますか。
 とてもそう思う ややそう思う どちらともいえない
 あまりそう思わない まったくそう思わない
- 14) 先生は研究面において、卒業後も熱心に取り組み十分な成果を上げていると自己評価されていますか。
 とてもそう思う ややそう思う どちらともいえない
 あまりそう思わない まったくそう思わない

(裏面に続きます)

15) 自分は現在でも医学の勉強を続けており、診療（あるいは研究）に必要な最新の医学知識を常に得続けていると思いますか。

- とても思う ややそう思う どちらともいえない
 あまりそう思わない まったくそう思わない

16) 日常診療以外に地域社会とのかかわりがありますか（地域での講演会や市民講座等を催す、あるいは講師として招聘される、等）

年（ ）回程度

広島大学で受けた教育を振り返って

17) 先生が学生時代6年間に受けた広島大学での教育を振り返って、在学中に十分に身につけられたと思うものに○をつけてください（複数回答可）。

- 医学に関する知識（座学） 臨床推論能力 診察手技（技能）
 患者さんとのコミュニケーション能力 医師としての倫理や使命感
 自己学習（生涯学習）の姿勢と意欲 実践的な英語能力
 一般教養
 その他（具体的に記載してください）

18) 先生が学生時代6年間に受けた広島大学での教育を振り返って、在学中に十分に身につけられなかった（不十分だった）と思うものに○をつけてください（複数回答可）。

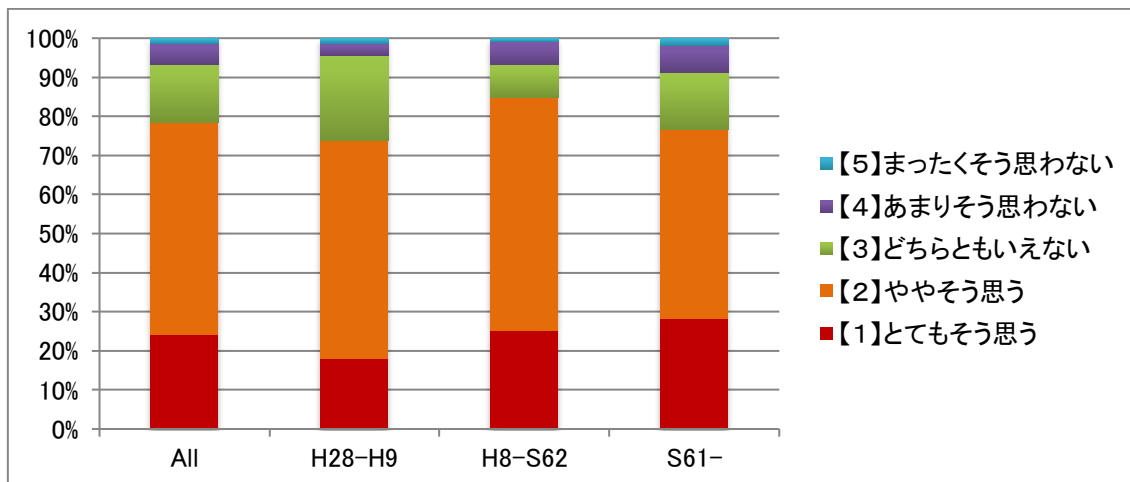
- 医学に関する知識（座学） 臨床推論能力 診察手技（技能）
 患者さんとのコミュニケーション能力 医師としての倫理や使命感
 自己学習（生涯学習）の姿勢と意欲 実践的な英語能力
 一般教養
 その他（具体的に記載してください）

19) 広島大学での医学教育を今後よりよいものにしていくために、提案や提言などがありましたらお書きください。

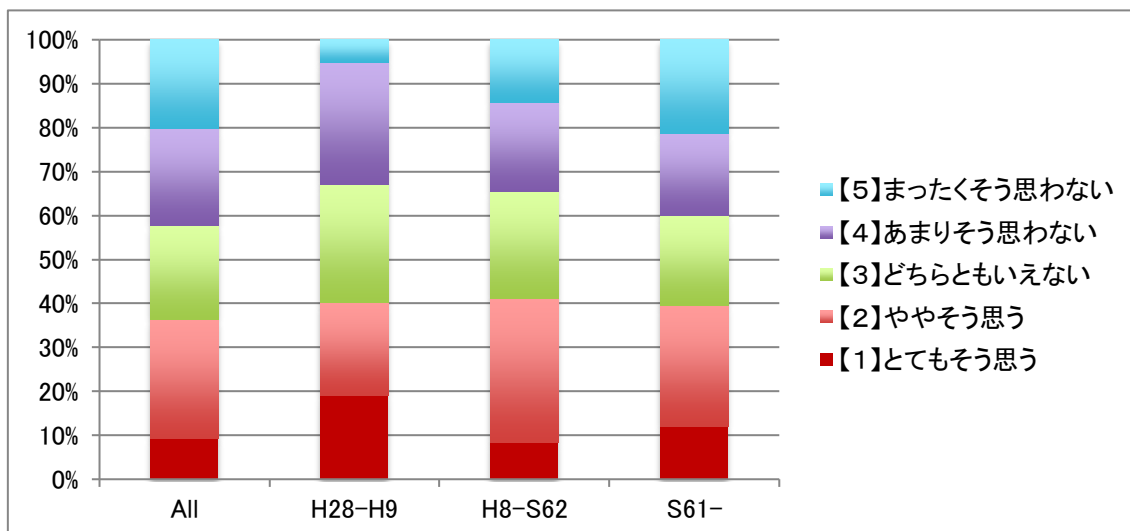
【平成 28-29 年度 広島大学医学部医学科 卒業生アンケート結果】

質問項目の質問 13)以下についての集計結果

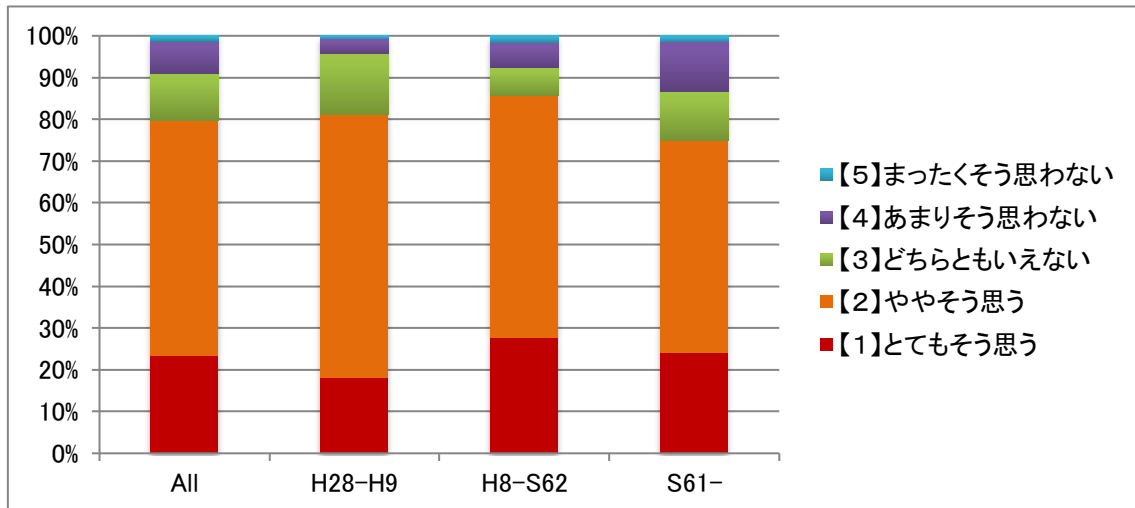
質問 13) 診療面において、卒業後も熱心に取り組み十分な成果を上げていると自己評価しているか



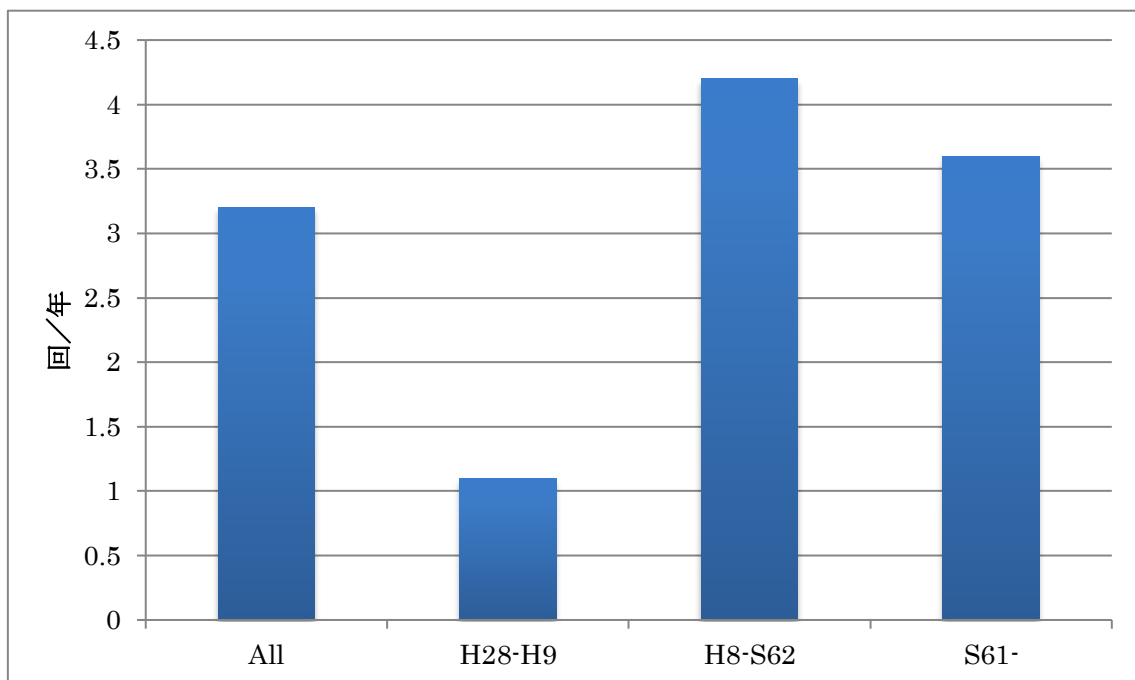
質問 14) 研究面において、卒業後も熱心に取り組み十分な成果を上げていると自己評価しているか



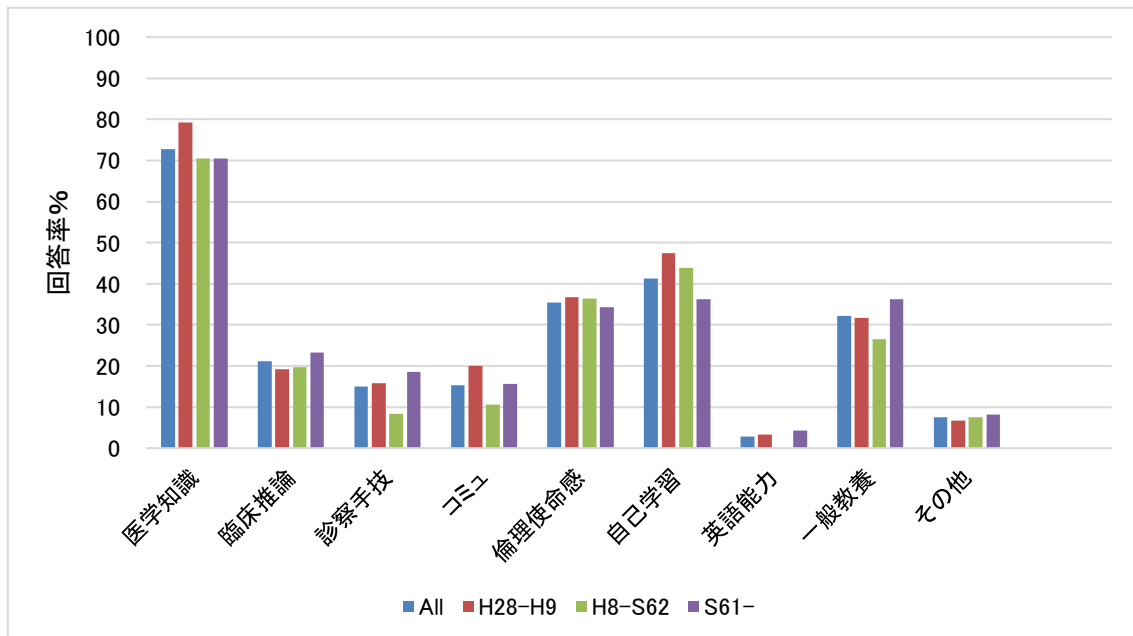
質問 15) 自分は現在でも医学の勉強を続けており、診療(あるいは研究)に必要な最新の医学知識を常に得続けていると思うか



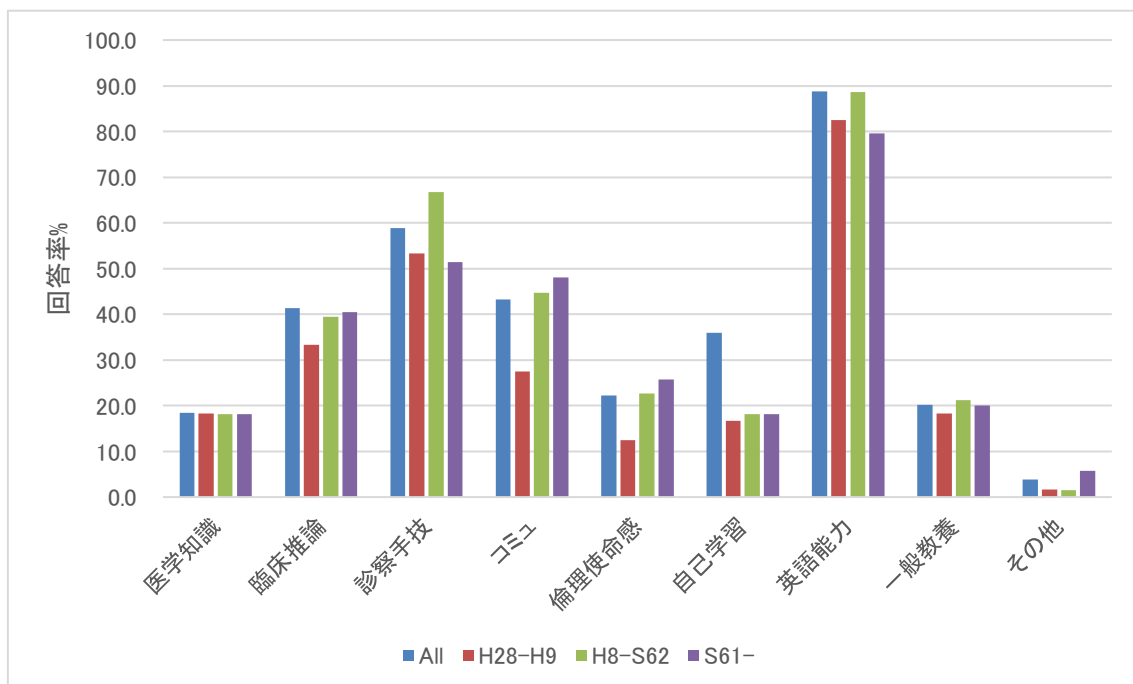
質問 16) 日常診療以外に地域社会とのかかわりがあるか(地域での講演会や市民講座等を催す、あるいは講師として招聘される、等)



質問 17) 学生時代6年間に受けた広島大学での教育を振り返って、在学中に十分に身につけられたと思うもの(複数回答可)



質問 18) 先生が学生時代6年間に受けた広島大学での教育を振り返って、在学中に十分に身につけられなかった(不十分だった)と思うもの(複数回答可)



提言などの自由意見

